

厚生労働科学研究「先天性心疾患を主体とする小児期発症の心血管難治性疾患の
救命率の向上と生涯にわたる QOL 改善のための総合的研究」研究班

分担研究活動報告

兵庫県移行医療センターの役割

分担研究者：兵庫県立こども病院循環器内科 城戸佐知子

研究計画 1.「主任研究者の研究計画に適宜協力する」について

・背景：兵庫県移行医療支援センターが神戸大学(成人施設)内に設置された。センターの関係者がこども病院で講演を行い、今後の課題について意見交換が行われた。

- ① 内科側のカウンターパートがない場合の受け皿をどうするか。特に、発達障害や知的障害、遺伝子疾患、また複数の疾患を持つ患者の場合。
- ② 軽症疾患でも経過観察が必要な疾患があるが、規模の大きな病院に・施設に紹介すると経過観察を打ち切られてしまう。開業医・在宅医で協力を得られる施設・医師について、小児病院からも紹介できるように情報提供が必要。

・研究目的：各地域での成人先天性心疾患診療体制の構築はこの研究班の大きな目標であるが、兵庫県では以前より診療体制の構築に積極的に取り組んでおり¹⁾、循環器分野では専門病院におけるネットワーク診療は順調に機能していると考え(資料①参照)。一方で、成人先天性心疾患診療を行う専門の成人施設では、診療に携わる循環器内科医の数は決して多いわけではなく、各施設で1人、多くても2-3人という現状である。小児科からすべての患者が移行すると疲弊することは目に見えている

ため、小児科側では①成人科へスムーズに転科させる症例、②小児科で引き続き診療する症例、③併診する症例、など患者背景や疾患内容を考慮に入れて各症例ごとに柔軟な対応が必要となっている。こうした中、今後増加していく成人患者の受け入れ先を増やすという目的で、開業医・在宅医、地方中核病院などの非専門医の協力者を募る必要がある。

・活動内容：兵庫県移行医療支援センターでは開業医・在宅医で協力を得られる施設・医師へのアンケートを施行、その結果を受けて、協力可能と返信があった開業医・非専門医に対して、兵庫県立こども病院から直接紹介できる仕組みを構築していく。

・今年度の成果

循環器分野についての啓蒙活動：主に兵庫県内の内科開業医・総合病院の非専門内科医を対象に講演会を行い、軽症心疾患の経過観察のポイントを講義、協力要請を行った。

(資料① 講演より抜粋)

・次年度の計画作成

循環器内科医へのインタビューからも、具体的に何を見てほしいか伝えてほしい、との意見があったので、紹介の際に添付できる「疾患ごとに具体的な診療のポイント(定期検診の内容、どういう場合に専門施

設に紹介するかなど)」を記したパンフレットを作成する。併せて、ドロップアウト症例などが非専門医を受診した場合の対応についても伝わるようにする。

研究計画 2.「成人先天性心疾患診療に携わる循環器内科医へのインタビュー調査」・2023/7/6-8 第 59 回日本小児循環器学会学術集会においてこれまでの研究を報告。
(資料②「成人先天性心疾患診療に携わる循環器内科医へのインタビュー」参照)

研究計画 3.「小児病院(兵庫県立こども病院)における患者対象の移行期診療外来の計画的調査」について(資料③「移行期・思春期外来の運用について」)

- ① 看護師が行っている別の厚生労働科学研究で患者説明用移行資料を用いて実際に患者への説明を開始している。現時点ではまだ症例を選んで少数の実施であるが、徐々に数を増やしてアウトカムなどを検討予定。主に、看護師の説明内容の補足・補助などを行っている。
→2023 年度は看護師の異動・マンパワー不足のため再調整中であったが、2024 年度から週 1 回の「思春期・移行期外来」を看護師と協力して活用、各主治医からの要請で患者教育を行っていく(現在まだ数人の患者のみのため、成果についての報告は次年度に持ち越し)。
- ② 診療報酬・アウトカムの設定・倫理委員会などについては未調整。
- ③ 患者教室の再開：2010 年より定期的に行っている循環器内科患者教室は、COVID-19 流行のために 2019-2022 の

間中断していたが、2023 年 11 月 11 日に女性の月経周期・妊娠について、Web を用いて行った。

参考

- 1) 城戸佐知子：成人先天性心疾患の診療体制ーこども病院の現状と問題点. 日本成人先天性心疾患学会雑誌, 2012;1(2):35～40.